

令和5年7月20日

## 学長への再任要請に関する審議の結果について

国立大学法人電気通信大学  
学長選考・監察会議

国立大学法人電気通信大学学長選考・監察会議は、国立大学法人電気通信大学学長選考等規程第8条第1項に基づき、再任要請の可否についての審議を行い、その結果下記の者を学長予定者として選考しました。

また、同条第4項の規定により、下記のとおり選考結果について公表いたします。

### 記

1. 氏 名 田 野 俊 一

2. 任 期 2年（令和6年4月1日から令和8年3月31日まで）

3. 結 果 再任を可とする。

出席委員数 10人による無記名投票  
(賛成 10票、反対 0票、白票 0票、無効票 0票)

#### 4. 選考理由

田野俊一氏は、学長就任以来、新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての運営面において、これまでにない対応や判断が求められるなか、学長着任日に危機対策本部を設置し学内の体制を整え、直後の緊急事態宣言の発令等に迅速かつ適切に対応した。また、その後の遠隔授業への実施から対面授業や研究活動の再開等へスピード感を持って対応しただけでなく、学生への経済的支援やメンタルケア等、個々のきめ細やかな対応を学長の強いリーダーシップにより実行した。

また、「UEC ビジョン～beyond2020～」(令和3年7月制定)(以下「ビジョン」という。)をもとに、本学が目指す社会像である「共創進化スマート社会」の実現に向けたミッションステートメントを「アクションプラン」として明確にして、「D.C. & I. 戦略」に基づいた経営判断や様々な取組みを進め、あらかじめ定めた年度計画を踏まえた着実な業務運営が行われている。さらに、定期的な「学長トーク」の開催や参加学生の幅を広げた「学生と学長の懇談会」といった機会を通じて、学生、教職員等のステークホルダーから要望を聴取しつつ、「共創進化スマート社会」の概念の共有を積極的に進めており、ビジョンの実現に向けて、対話(コミュニケーション)と自らの説明・情報発信に努めている。

特に、入試改革を進めて一般選抜前期日程での類別入試を実施(大括り入試を発展的廃止)したことと併せて2学期4ターム並立制などの教育カリキュラムを改善したこと、デザイン思考・データサイエンスプログラムを令和5年度設置したこと、並びに「共創進化型イノベ

ーション・コモンズ キャンパスマスタープラン 2022」を策定し、本学の目指すキャンパスの方向性を示したことなど、ビジョンに掲げた教育・研究活動等に係る取組みに関して、学長としてのリーダーシップを発揮し、今後の実施へと繋げた。

以上のとおり、「電気通信大学学長選考基準」で求める能力と課題を達成する見識と実行力を有する者であることから、次期学長として適任であると判断した。

## 5. 選考過程

### 令和3年2月15日

学長選考会議において、毎事業年度終了後に学長の業績評価を行い、学長への再任要請に関する審議及び選考の場合、学長就任からの業績評価を用いることとした「電気通信大学学長業績評価実施要項」を決定した。

### 令和3年6月21日

学長選考会議において、令和2事業年度の学長業績評価を実施し、令和3年9月13日に学長業績評価結果を田野学長に通知した。

### 令和4年6月20日

学長選考・監察会議において、令和3事業年度の学長業績評価を実施し、令和4年9月15日に学長業績評価結果を田野学長に通知した。

### 令和5年2月13日

学長選考・監察会議において、令和5年度における学長候補者選考日程及び学長への再任要請に関する審議における確認事項についての検討を行った。

### 令和5年6月19日

学長選考・監察会議において、学長への再任要請に関する審議日程等を決定し、大学構成員に対し、令和6年6月21日付け「学長への再任要請に関する審議の実施について」をメールで周知を行った。

### (同日)

学長選考・監察会議において、令和4事業年度の学長業績評価を実施した。

### 令和5年7月20日

学長選考・監察会議において、再任の可否について審議した結果、再任を可とする決定をし、田野学長に再任要請をすることとした。その後、小間議長及び森口議長代理が田野学長に選考経緯を報告するとともに、再任要請を行ったところ、受諾するとの回答があり、学長選考・監察会議において、学長選考等規程第8条第2項に基づき、田野学長を次期学長予定者とすることを決定し、このことを学長に報告した。

また、令和4事業年度の学長業績評価結果を田野学長に通知した。

以上